

【地方創生関連交付金等を活用した事業】

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
東北六市連携による伝統的夏祭りを活用した交流人口拡大プロジェクト	<p>東北の伝統ある夏祭り（青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつり）を一体化し実施した東北六魂祭（2011～2016年）、東北絆まつり（2017年～）の実施により、東北絆まつりは新たな伝統文化として認知されつつあり、東北の県庁所在地六市等の連携体制も強固なものとなっている。</p> <p>本事業では、その連携体制と新たな伝統文化「東北絆まつり」を活用し、東北六市が連携した観光物産プロモーションを実施することで、東北の風土や自然、食などに広がりを持たせた文化・観光の魅力を発信するとともに、スタンプラリーなどにより東北域内在住者を含めた、域内周遊を促進することで交流人口の拡大を図った。</p> <p>1 情報発信 日本国内でも認知度の高い東北の夏祭り（青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつり）を入り口とした観光情報を発信するため、東北絆まつり東北文化の魅力WEBを拡充し、夏祭りに紐づく地域の風土や文化、食などの情報を掲載し、WEBやSNSを活用したプロモーションで誘導、接触を図り、認知拡大や来訪意欲を増進した。</p> <p>2 東北周遊デジタルスタンプラリー 東北域内の周遊を促進するため、来訪者、域内在住者を対象とした、デジタルスタンプラリーを実施した。 東北の県庁所在地六市を中心にラリースポットを設定し、祭りの楽しみ方や地域の見どころ、食等を紹介することにより複数スポットの立ち寄りと消費を促した。</p> <p>3 新伝統文化「東北絆まつり」を活用した観光物産プロモーション 首都圏等において、「東北絆まつり」を活用した観光物産プロモーションを行った。 六市が連携した観光物産プロモーションの実施により、東北一体となった文化や四季を通じた魅力を発信し、強い印象を与えることで、訪問意欲を向上させ、来訪に繋げた。 ○プロモーション実施回数 首都圏で2回（なかの東北応援まつり、うへの桜フェスタ）</p>	<p>○東北の県庁所在地六市（青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市） 延べ宿泊者数 (2022年は2017～2019年の平均値を目標にし、その後毎年各市50,000人泊増)</p> <p>R4実績：2,291,000人泊</p> <p>○夏祭り（青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつり）入込数（2022年は2017～2019年の平均値を目標にし、その後毎年各市30,000人増） R4実績：4,112,000人</p>	観光課

	<p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北絆まつりステージ 青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり（仙台すずめ踊り）、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつりのそれぞれの実演と、一体となった東北絆まつりパフォーマンスを行う。合間には東北の紹介トークイベントなどを行い、東北一体となった文化や魅力を発信した。 ・観光物産展、伝統工芸体験等 地域ならではの物産品の販売、伝統工芸体験（こけしの絵付け等）を通して、東北魅力に触れていただき、認知度を高めた。 ・観光PRコーナー 観光パンフレット等の配布と、各市観光担当者による観光情報紹介と相談を行った。 <p>4 夏祭り等旅行商品造成販売促進</p> <p>各祭り（青森ねぶた祭、盛岡さんさ踊り、仙台七夕まつり、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、福島わらじまつり）において、旅行行程に組み込める有料体験プログラムを開発し、商品・造成販売意欲のある旅行会社に提供し、旅行会社ではそれを旅行行程に組み込み販売することで、東北における体験交流人口の増加を図った。</p>	<p>○観光物産プロモーション実施回数 R4 実績：2回</p> <p>○スタンプラリー参加者数 R4 実績：2,279人</p>	
--	--	---	--

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
盛岡 AI・IoT プラットフォーム事業	<p>盛岡広域に集積する IT 関連企業が持つ AI・IoT 等の先端技術と、製造業等の AI・IoT 活用のニーズや課題のマッチングを図ることを狙いとし新しい価値や技術にチャレンジする実証実験を行う場「盛岡 AI・IoT プラットフォーム（マルチモノ盛岡）」を設置。モデルとなる企業の未来技術に関する実証実験への支援を実施するとともに、IT 企業及び製造業等の異業種企業のネットワーク化を推進し、産業の高度化・高付加価値化を図ることにより高度 IT 人材の地元定着を推進する。</p> <p>(1) 盛岡広域の AI・IoT 等に関する取組情報の一元化 （R4 年度実績：セミナー 2 回、学習交流会 6 回開催）</p> <p>(2) 研究開発型企業の実証実験の支援 （R4 年度実績：5 件の実証実験事業補助を実施）</p> <p>(3) IT 高度人材のスタートアップ支援 （R4 年度実績：製造業等を対象としたプログラミング学習機会（デジジュク）を 2 期に渡り開催）</p> <p>(4) サテライトオフィス立地促進 （R4 年度実績：地方進出意向のある企業と盛岡市のマッチングイベントを開催、参加企業のうち 3 社との個別面談を実施）</p>	<p>① 地元高等教育機関卒業生の県内就職者数：161 人</p> <p>② プラットフォーム参加登録企業数：58 社</p> <p>③ 参加登録企業による実証実験の実施件数：5 件</p> <p>④ IT 高度人材によるスタートアップ企業の起業数：2 社</p>	ものづくり推進課

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
関係人口の増加を機軸とした移住・定住・交流人口対策事業	<p>雇用、観光、地域経済、農業などの各分野での現状や課題などの把握や既存事業との関係性を考慮した上で、イベント開催などのほか、マーケティング手法を構築しながらホームページやSNS、マスメディアによる双方向を意識した情報発信を行い、東京圏の潜在的な移住・交流ニーズに的確に対応することで、特産品購入やふるさと納税など東京圏にしながら盛岡との関係性を築くことができる環境を整備するものである。</p> <p>また、高校生などの若者に盛岡で働くイメージを持つ機会を提供することで、長期的な視点から若者の盛岡への還流を促進するほか、東京圏からの交流や移住の希望者が、「仕事」や「暮らし」を一体的に体験できる環境や、地域と交流できる拠点を整備し、移住や交流につながる新たな仕組みを構築することで、移住・定住の促進を図ろうとするものである。</p>	<p>①事業を通して、盛岡を訪問した人数 目標 170人 実績 818人</p> <p>②事業を通して、ふるさと納税を行った人数 目標 700人 実績 762人</p> <p>③事業を通して、移住した移住者数 目標 30人 実績 65人</p> <p>④事業を通して、データベースに登録した人数 目標 1,000人 実績 1,929人</p>	<p>都市戦略室</p> <p>実施期間 H30～R4</p>

交付金名称	地方創生拠点整備交付金		
事業の名称	実施内容	実績（K P I 等）	備考
スポーツ・ツーリズムの推進（施設整備）	「いわてグルージャ盛岡」のホームスタジアムである「いわぎんスタジアム（盛岡南公園球技場）」にＪリーグのスタジアム基準を満たす照明整備により，施設の充実による大会・合宿受入れやプロスポーツチームの観戦を核としたスポーツ・ツーリズムによる交流人口の増加を図る。	グラウンド利用者数 16,548 人 Ｊリーグ観客数 1,819 人/試合	スポーツ推進課 実施期間 R2 年度

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
将来に向けて盛岡・玉山の「農業」と「ひと」を紡ぐ拠点・（仮称）道の駅もりおか整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・整備工事を発注した。 ・盛岡・玉山地域の農畜産物を発信・販売する産直及びレストランについて、運営候補者と運営方針等の検討を行った。 ・市内高校生・学生と地元事業者による道の駅の特産品開発「モリのタネプロジェクト」を、「フューチャーセンター」の先行取組として実施した。市内高校生・学生15名が参加し、2つのプロジェクトに取り組み、地域の農産物を活用した4つの商品案を企画した。 	①玉山地域の新規就農者数 0人 ②玉山地域の産直の利用者数 … 302,900人 ③フューチャーセンターで取り組むプロジェクト数 … 2件 ④フューチャーセンターのプロジェクトに参加する高校生・大学生の人数 … 15人	道の駅整備推進室 実施期間 R4～R8

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
中心市街地・ 公共施設通信 環境整備事業 <通信環境整 備事業>	<ul style="list-style-type: none"> ・文化会館の通信環境を整備した。 ・コロナ禍でニーズが高まっているオンラインを活用した会議や研修を可能とするほか、オンラインを活用した催事の実施など芸術文化活動の新たな事業展開が推進され、施設利用者の増加が期待できること。また、文化会館は災害発生時の避難所機能を有することから、災害発生時においても円滑な通信環境が保たれ、安全・安心な環境の整備と、利便性の向上を図るため実施したもの。 ・盛岡市民文化ホール、盛岡劇場、都南文化会館、洺民文化会館 	<ul style="list-style-type: none"> ・実績なし ・2022年度は施設に機器を設置するまでの業務であり供用開始を2023年4月1日からとしたため。 	文化国際課

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
中心市街地・ 公共施設通信 環境整備事業 <盛岡 city wi-fi 整備事 業、東京圏観 光プロモーシ ョン事業>	<p>①盛岡 City Wi-Fi 整備事業 「まちなか観光」の推進に向けて、快適に旅行を満喫できる環境の整備を図るため、無料 Wi-Fi スポット等を整備することで、観光客の誘客を推進し、地域経済の回復と活性化につなげたもの。</p> <p>(1) 盛岡 City Wi-Fi AP（アクセスポイント）の設置：32 か所 (2) 盛岡 City Wi-Fi 接続説明板の設置：32 か所 (3) 盛岡 City Wi-Fi 周知用チラシの作成：10,000 部</p> <p>②首都圏観光プロモーション事業 国内需要の取込に向けて首都圏をターゲットとしたプロモーションを行った。本市の強みを分析しつつ、ターゲット層を設定し、SNSを活用した情報発信・拡散を兼ねた検証を行い、潜在ターゲットに対し、盛岡の魅力を刷り込みつつ、訪問意欲を醸成し、新たな交流人口の拡大に向けて本市を知る機会につなげた。また、「まちなか観光」の推進に向けて、デジタルマップを活用し、快適に旅行を満喫できる環境の整備を図った。</p> <p>(1) 首都圏観光プロモーション事業に係るリーチ数：1,596,153 リーチ (2) デジタルマップ公開日：令和4年10月6日 (3) デジタルマップ登録スポット数：118 スポット (4) デジタルマップ閲覧回数：21,772 回</p>	<p>①観光客入込数： 3,697,141 人回</p> <p>②デジタルマップ 利用者満足度： 60%</p>	観光課

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
中心市街地・ 公共施設通信 環境整備事業 <通信環境整 備事業>	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の通信環境を整備した。 ・コロナ禍でニーズが高まっているオンラインを活用した会議や研修を可能とするほか、社会教育活動の新たな事業展開が推進され、施設利用者の増加が期待できること。 また、公民館は災害発生時の避難所機能を有することから、災害発生時においても円滑な通信環境が保たれ、安全・安心な環境の整備と、利便性の向上を図るため実施したものの。 ・中央公民館、上田公民館、西部公民館、河南公民館、都南公民館、渋民公民館 	<ul style="list-style-type: none"> ・実績なし ・2022年度は施設に機器を設置するまでの業務であり供用開始を2023年4月1日からとしたため。 	生涯学習課

交付金名称	デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）		
事業の名称	実施内容	実績（KPI等）	備考
中心市街地・ 公共施設通信 環境整備事業 <盛岡市タウ ンマネージメ ント機関支援 事業>	中心市街地内に設置したカメラのデータをAIにより解析し、人流交通量を日常的に把握 できる環境を整備した。 【カメラ設置箇所】 ①盛岡駅東口バスターミナル内 ②盛岡駅西口マリオス前 ③開運橋交差点 ④材木町交差点 ⑤大通り三丁目交差点 ⑥パルクアベニュー・カワトク前 ⑦大通り・映画館通り交差点 ⑧中央通り・映画館通り交差点 ⑨盛岡城跡公園前交差点 ⑩盛岡市役所前 ⑪肴町アーケード入口 ⑫肴町アーケード内 ⑬八幡通り	固定カメラ 13 台 可搬カメラ 2 台	経済企画課